

追加議案続き

「訴えの提起について」に対し、2名の議員が討論を行いました。

反対討論

○稲垣 茂行

市長は施政方針の中で、「事業は、地権者の協力を得て着実に進んでいる」と述べたが突然、「裁判」を提起。

重機等の残置理由や事業への具体的影響、相手方との折衝経過、裁判の見通し等、不透明な中での判断は危険。

調査・検討の上、6月議会会で再審議すべきと考え、反対。

○伊藤 正勝

新型コロナウイルス対策に伴い、議会は会期を短縮。その中の追加議案。5人の議員が立ち、「土地明け渡し」の話し合いや交渉、経過や内容を質問。責任者の市長がどう対応し判断したのか。自ら説明し納得の努力をするのは当たり前のことです。終始無言は理解できず、これでは、賛成できない。

予算

一般会計予算討論

一般会計予算に対し、3名が討論をおこないました。

反対討論

日本共産党吉川市議員団

遠藤 義法

旧市役所跡地の再利用や三輪野江の農業パーク構想など市の計画、財政が大きくかわる事業が市長の意向が先行し、市の事業として追認している。市民参加と市職員の英知を集めた事業とすべきである。

市の施策・事業は特定の地域や特定の団体を対象とせず、市民全員対象にすべきである。

①旭、三輪野江地域を中心にタクシー利用補助事業を試行的に実施したが、公共交通事業はすべての市民を対象とすべきである。

②子どもの貧困対策は当然であるが、中間層も含め生活はきびしく、子ども施策は原則全ての子どもを対象に実施することが大事である。

③市街化調整地域の公園整備や舗装などの環境整備が後回しになっている。何よりも市民の方がそう受け止めている。

賛成討論

未来会議よしかわ

林 美希

各種経済報告を見ると、新型コロナウイルス感染症が内外経済に与える影響に十分注意する必要があるとされている。今回の困難に対し「各地域が地域内経済循環を促進し自立を目指すこと」「多様な働き方が推進され、多様な生き方を選択できる土壌をつくること」「市民ひとりひとりが自らの幸福を定義し、追求していくこと」が必要であると感ずる。そうした観点から改めて施政方針を見返すと、吉川市への愛着心や幸福実感の向上につながる事業、市民のみな

さまと協働し社会課題を解決するための事業がしっかりと重要視されていた。

投票という形で意思を示すことができない子ども達を含めた全ての市民のため、公平公正で筋が通った議決と持続可能な未来を描くことを誓い、審議の結果賛成の立場を示す。

公明党吉川市議員団

五十嵐 恵千子

令和新時代が本格始動となる重要な年度です。

施政方針の基本的な考え方に賛同した上で、①減災力向上と体制強化を図る人材育成や水害関連標識の設置。②自治会や民生児童委員等へ災害時要支援者名簿の配布及び支援者向けマニュアルの作成。③子どもの貧困対策や児童虐待に一層支援の輪を広げる。④いじめ・不登校対策として勇者の旅プログラムの実施。⑤吉川駅のバリアフ



リー化。⑥高齢者タクシー利用料助成事業の継続と新たな移動支援。⑦障がい者雇用の促進。等々、これまで公明市議員団が提案してきた多くの事業が盛り込まれており高く評価します。市民一人ひとりの幸福と市政の発展が一致する、名実共に住みよいまちづくりへ、職員が一人丸となり、全力を尽くされる事を願い賛成とします。